

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1173200930		
法人名	株式会社 メディカル・コンサルタンツ		
事業所名	グループホーム いこいの里		
所在地	埼玉県比企郡鳩山町大橋984-1		
自己評価作成日	平成31年1月23日	評価結果市町村受理日	平成31年2月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユーズキャリア		
所在地	埼玉県熊谷市久下1702番地		
訪問調査日	平成31年2月4日		

ta

日常生活の中でご利用様が出来る家事等に参加して頂き、やりがいや楽しみを多く持って、喜びや張り合いが築ける様に支援している。ご家族様にご利用様の状況をお手紙や面会時に報告し、安心感を持って頂けるように取り組んでいる。季節ごとのイベント、お誕生日お祝いの外出支援等に力を入れ、又、ご家族様参加のイベントを呼びかけてホームでの活動等についてご理解とご協力を頂ける様に取り組んでいる。中庭を活用し、季節の花や野菜の収穫に楽しみや喜びを感じて頂いている。地域の方の様々なボランティアを受け入れ、ご利用者様に地域との繋がりを設けている。又地域で行われるイベントにも参加して楽しんで頂いている。提携病院への受診は、職員が付き添い、医療との連携も強めている。他、ご家族様の希望があれば別病院受診時に情報提供を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は雑木林に囲まれた自然豊かな丘陵地帯に建つ、平屋建て2ユニット(定員18名)のグループホームである。築年数を感じさせないくらい綺麗な建物で、随所に原木を利用した設計は木の温もりを感じさせる作りとなっている。A棟とB棟は廊下で繋がっており、入居者、職員は適時行き来をしている。館内は清掃が行き届き、整理整頓が徹底されている。入居者の日々の活動の中心となるリビングの他に、掘り炬燵のある和室が設けられており、充実した空間となっている。スタッフは開設以来からのベテランを中心にまとまっており、円滑に運営されている様子が窺える。A棟とB棟を挟む中庭では毎年、芋煮会を催し家族や入居者、地域の方の参加があり、良い交流の場となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します(A棟)

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に「地域との連携によるご利用者様本位の生活の場を鳩山で」を掲げ、日常の中で必要に応じて随時伝え、実践に取り組んでいる。	理念を玄関に掲示し、日々目に触れるようにしており、日頃の活動の中では管理者が折に触れ指導し浸透させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入っている。ボランティアを積極的に受け入れたり、地域の行事に参加する等、日常のお付き合いが出来るよう努めている。社会福祉協議会が主催する児童のボランティア体験等、積極的に受け入れている。	地域の行事に積極的に参加するだけでなく、クリスマス、芋煮会等の事業所行事に地域の方を呼び掛けたり、月一回、地域のボランティアが書道、折り紙等のアクティビティを行っている。また、社会福祉協議会主催の児童ボランティア体験等を受入れる等の地域交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の社会体験チャレンジの受入れを行っている。認知症を理解して頂き、支援の方法等を地域の人々に伝えている。地域で行われる福祉の祭りに参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月毎に行ない、2ヶ月間の事業報告等を通し理解を得ている。話し合いの中で伺った意見はサービス向上に反映するよう努めている。	運営推進会議は規定通り、2ヶ月毎に年6回、町や包括支援センター、地域の民生委員や老人クラブ、家族の参加を得て実施している。意見交換を行う中で他の事業所の話や地域の情報等を伺い、参考にしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	長寿福祉課、地域包括支援センター等と密に連絡をとり、相談しながら連携をとっている。又、ご利用者様のニーズに合わせたボランティアの依頼の相談も行っている。	長寿福祉課主催の事業所連絡会(2ヶ月毎)、地域包括支援センター主催の地域ケア会議(毎月)に参加し、事業所の状況報告や様々な情報の交換をしている。各種ボランティアの紹介を受ける等の協力を頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠に関してはH28年1月よりご家族様同意の下、安全確保の為に日中施錠して対応する方向に変更している。居室の鍵はご利用者様が掛けることはあっても、職員が掛けることはなく、自由意志での行動を見守っている。	スタッフには年1回以上、外部の研修に参加させ意識徹底を図っている他、月1回のフロア会議で拘束について取り上げ、問題意識を共有させている。現在、安全面より玄関の施錠をしているが、家族に説明し理解を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止等に関する研修に参加する機会や内部研修の機会を設けて、虐待防止に努めている。虐待防止宣言を掲示している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護等に関する研修に参加する機会や内部研修等の機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結・解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約等の時には、ご利用者様やご家族様と契約書・重要事項説明書等を読み合わせ、丁寧に説明し、不安や疑問点を伺い、十分な理解を得た上で契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様やご家族様の意見や要望等に関して、伝えられる環境作りを行い、コミュニケーションを心掛けている。玄関に意見箱の設置や第三者委員の連絡先を明示し職員以外にも伝えられる環境が出来ている。	玄関脇に意見箱を設置している他、家族の来所時に広く意見を聞くようにしているが、これまで特に大きな要望や意見がないのが実情である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回フロア会議の他、リーダーとの打合せ、週報の報告を通して意見の分析を行っている。職員の意見や提案を運営に反映させている。	月1回のフロア会議を利用し、各種意見を聞き検討しているが、むしろ日々の活動の中で出される細かな意見や提案を重視し、理由も確認の上、都度解決策を講じている。管理者は職員間のコミュニケーションを図るよう心掛けている。意見の中から入浴時間の変更や用具の購入等を行ってきた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務評価は昇給、賞与支給時に作成する人事評価へ反映している。就業規則の整備に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、外部研修や内部研修を受ける機会を計画し、実施している。外部研修参加費用交通費は自社持ちにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の連絡会を通じ実態の把握を行う。地域の方々と運営推進会議の場をもち、情報交換サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様と会話を多く持ち、不安や要望等充分耳を傾け、ご利用者様の意志や希望を尊重しつつ、不安軽減の対策や声掛けに努め、職員との信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が困惑している事、不安な事等に傾聴姿勢を重視して、信頼関係作りに努めている。入居後の様子を連絡し安心感が得られるよう対処している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時にご利用者様とご家族様が何を求めているか確認し、いこいの里の方針を説明しながら、他の介護サービスの説明も同時に行ない、ご利用者様の選択を広げる様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様と共に生活を送り、共に助け合っていく関係を築いていき、また、人生の先輩であるご利用者様から生活上の知恵等を教えて下さることも多く、支え合う関係が築かれている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の面会時等、ご利用者様の近況をお伝えし、ご利用者様とご家族様が入居後もより良い関係が築けるように努めている。イベント等ご家族様の参加を呼び掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者様の馴染みの人との面会を受け入れている。馴染みの場所に関してはご家族様の協力を得ながら支援に努めている。	知人が定期的に面会に来たり、近隣の買い物と一緒に出かけたりしている。個々の希望による外出は基本的に家族にお願いし、必要な場合にはスタッフが付き添う等の対応をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活を通じ、ご利用者様同士が関わり合えるよう取り組んでいる。ご利用者様の個性を尊重し、必要に応じ、ご利用者様同士の間には職員が入り、より良い関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了した後でもご家族様に、その後の状況を確認し、必要があれば相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望する生活が日常の事等、ご利用者様の意向を聴きとり、意向に沿ったケアプランを作成している。聞き取りが困難なご利用者様には日頃の様子とご家族様の意向を確認して、検討している。	家族の意向を確認した上で、入居者との日頃のコミュニケーション、表情、しぐさを敏感に察知し、思いの把握に努めるようにしており、職員もその対応が来ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活習慣等の情報をご家族様や関係機関の協力を得ながら把握する様に努めている。入居後もご利用者様の習慣等を大切にされた生活になる様に心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申送りや定期的なアセスメントやモニタリング等で、ご利用者様の心身状態や有する力等の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様やご家族様の意向を聞き取り、日々の生活状態等からケアプラン(案)を立て、ご利用者様、ご家族様、職員参加によるサービス担当者会議を開催し、意見を反映しながらケアプラン作成や見直しを行っている。	介護計画は最低3ヶ月毎に見直しているが、入居者の状態変化の際は、必ず毎月のフロア会議で検討し、見直しをしている。職員、入居者が参加のサービス会議を開催しており、フロア会議は朝9:30から1.5時間位かけて実施し、ホーム長、フロアリーダーは必ず参加している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等は個人ノートに記録し、日誌を作成し、申送り時やフロア会議時に職員間で情報を共有しながらケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様の状態やご家族様の状況の変化により、契約している居室の移動等行い、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月定期的にボランティアの方々が来所し、ご利用者様の意向を確認しながら参加している。地域で行っている行事等に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族様の要望等を主治医に伝えている。必要に応じ情報提供書を作成している。提携病院には職員が通院に同行し、日常生活状態等を伝え、関係作りを築きに努めている。緊急時は家族の意向を十分に聞き入れ対応している。	提携病院に月1回、スタッフが付き添い定期受診をしている。個々の通院は基本的に家族の対応であるが、必要な場合にはスタッフが付き添い、支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の健康管理や対応の仕方等、アドバイスを得ながら介護職員と連携を図っている。看護師と職員との連絡ノートを作り質問等があった場合は役立っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者様の入院時は、情報提供書の提出や入院先に面会に行き、家族と連携しながら、必要に応じ病院関係者と情報交換を行い、入院後に留意しなければいけない点等を確認し合い、退院後の支援に役立っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合にはご家族や主治医にはその都度状態を報告している。生活に関する意向の中に、終末期について意向を確認している。	入居前の契約時に、原則、終末期の対応は出来ない旨を説明し、了解を得ているが、過去に一人、本人の意向を尊重し、看取りまでの支援を行ったことがある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを策定している。急変時はマニュアルに沿って慌てる事なく対処している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時対応マニュアルや、職員緊急連絡網、防災計画を作成し、それに沿った訓練を行っている。夜間想定避難訓練等も行っている。	災害時対応マニュアル等を作成し準備しているが、避難訓練は平日実施ということもあり、地域の方の参加には至っていない。現在、町の指導の下、最新の消防署への自動通報システムの導入を予定しており、昨年の訓練は今年3月に延期された。日頃よりマニュアルに添って火元確認から通報までの訓練を行っている。	最新システムのもと、年2回の防災訓練を実施し、昼夜の避難の方法を全員が身に付け、また、開催日を調整する等、今後も近隣の参加に向けた働きかけを地道に行っていくことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様、一人ひとりの気持ちや思いを尊重し、ご利用者様の誇りや尊厳を大切にしました言葉。	人格とプライバシーを尊重し、入浴、排泄は共にスタッフが1対1で対応している。呼び名も原則「さん付け」で言葉掛けし、人格の尊重を意識した対応をしており、朝夕の申し送り時には一人ひとりのケアについて振り返りを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の会話の中から得られたご利用者様の思いや希望は連絡ノートの活用、申し送りやフロア会議等で職員全体で話し合い、思いや希望に沿える様な支援ができる様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日をどう過ごしたいか、ご利用者様の意向を尊重しながら見守り、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみ、おしゃれは、衣類の中からご利用者様の希望を聞きながら職員が支援している。買物日に洋服を購入することもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食後の片付けはご利用者様と職員が一緒に取り組んでいる。食事の希望を取り、可能な限り、希望した食事が提供できる様に努めている。	調理場はオープンキッチンとなっており、スタッフの調理する様子が見られ、入居者がテーブル拭き等の準備を手伝っている。季節のイベント時には特別な行事食を用意し変化をつけている。誕生会では本人の希望を取り入れた外食の機会を設け、好評を得ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医や管理栄養士の指導の下、ご利用者様の持病を把握し食事や水分の摂取量を確認・調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、昼、夕食後1日3回の口腔ケアを実践している。ご利用者様一人ひとりの力に合わせて見守り、声掛け、介助を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様一人ひとりの力や排泄パターンに合わせ、見守りや誘導を行なっている。その取り組みで清潔を保つ事ができ、かつ、自立に向けた支援ができる様に努めている。	個人の排泄パターンに合わせ見守り・誘導・介助を行っている。夜間は布パンツ、リハビリパンツで個別に対応している。なるべくオムツにしないように努力をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や運動を行い便秘予防の取り組みを行なっている。排便表の記入により排便状態の把握、申し送りの徹底を行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご利用者様一人ひとりの希望や湯の温度など職員が理解しており、入浴の時間などはご利用者様毎に伺いし、希望に添えるよう努めている。季節によっては菖蒲湯等も行っている。	週2回入浴を原則とし、A棟とB棟、午前と午後に分け、状況に合わせて支援しているが、個別の都合や希望にも応じている。季節を感じて頂くため、菖蒲湯や柚湯等を行い、入居者に喜んで頂いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節の変わり目など、寝具やアンカや電気毛布の配慮を行い、気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬後の変化や状況を把握し、受診時には主治医に報告、相談を行っている。服薬時のマニュアルが整備され、誤薬等が発生しない様に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様の入居前の生活歴等を把握し、一人ひとりに合わせた役割や楽しみを支援内容に取り組み、楽しみや気分転換がある生活を過ごせるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物、散歩、季節ごとのイベント等(初詣・夏祭り等)での外出支援に取り組んでいる。又、ご利用者様のお誕生日にはご自身の希望に添った外出支援を取り入れて喜んで頂いている。	個別に週2～3回程度、散歩等の外出支援を心掛けている。集団での外出は行事以外では難しいので家族の協力を得ている。お花見や公園等にドライブに出掛けたりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物同行希望のご利用者様と一緒に買物に行き、ご利用者様が買物を楽しまれる事を見守り、おやつ類や嗜好品、衣類など家族の了解を得ながら支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様が電話を掛けたい意向があるときにはいつでもできるように支援している。知人への手紙が出せる様に支援に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	平屋作りで共有の空間からは中庭や周りの景色をみることで季節を感じる事が出来る。浴室は床暖房になっており、冬場、他居室やリビング等との温度差のないよう考慮している。	館内にはリビングの他に、掘り炬燵のある和室の居間が設けられ、好評を得ており、充実した共用空間となっている。天井も高く広い空間があり、温度調整され、スタッフによる毎日の清掃や整理整頓が行き届いており、清潔感が感じられる。また、中庭や畑があり季節を感じる事が出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で一人で過ごせたり、居間や居室等を利用して自由に過ごしたり、会話を楽しんでいる。各ユニットは自由に行き来ができ、ユニットに関係なく交流し会話を楽しめる様に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家具や使いなれた馴染みの生活用品等持込が出来る旨をご利用者様、ご家族様に説明し、一人ひとりの好みに応じた居心地よく過ごせる様に配慮、工夫に努めている。	各居室は照明、エアコン、洗面台が備え付けられ、ベッドはレンタル可能であり、家具や小物等は持ち込み自由となっており、各々に自分らしい部屋となっている。居心地良く安全に過ごせるよう職員は毎日環境整備を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差のないバリアフリーの建物で、車椅子でも自由にホーム内を移動できる。手すり等が設置されている。台所が広く作られており、ご利用者様が家事等参加しやすくなっている。		

目標達成計画

作成日:平成 31 年 2 月 20 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	日々の生活では火災を出さないように作業にあたっての安全意識を高め、確認を徹底させる。利用者が避難できる方法を全職員が身につけるように定期的に訓練を行う。	災害等の避難訓練においては、地域住民の協力を頂き、利用者の状況を知っていただく機会となるように努めていく。消防団に指示、助言等協力を頂き、災害への対応力を強化していく。	①定期的に避難方法や通報の訓練を行う。 ②地域住民参加の訓練を行い、利用者の状況把握、安全性と関係性を深めていく。 ③消防団にマニュアル、訓練内容を確認して頂き、指導等を頂く。	12ヶ月
2	49	身体機能維持の為、行事以外での日々の外出支援を多く実行していく。散歩等含め日常生活の中で自然に身体機能の維持・向上できるように取り組んでいく。	利用者の趣味や意向に沿った外出支援を行う。その際は本人に合わせた移動の工夫を行うようにする。体操の時間は一人一人にしっかり向き合い身体状況の確認、変化を見逃さないように努める。	①近隣への散歩が習慣となるよう、外出支援の意識を高めて取り組んでいく。 ②個別での買い物や、趣味に沿った支援を行っていく。 ③利用者が楽しく参加できる体操を取り入れて身体機能維持を図る	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。